

さいとう淳一郎の日々の街頭演説を、紙上でお伝えしています。

次の世代のために…38歳 覚悟の決断  
栃木県議会議員

## さいとう淳一郎街頭演説レター

第 1 号

発行日 平成 23 年 5 月 1 日

発行者 栃木県議会議員

さいとう淳一郎

〒329-2136 矢板市東町 3006-3

### 震災復興に全力投球します！！！！

3月11日に発生しました東日本大震災に被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。

『さいとう淳一郎』は震災発生直後から矢板市内の被災地を歩き回り、必要な情報をお知らせするとともに、被災された皆様の切実なお話をお聞きしてきました。こうした皆様のお声を、栃木県政に何としてでも届けたいという決意を新たにしています。

今回の大震災で被災地を歩き回っていて最も残念に感じたことは、断水期間中、給水所まで行くことができない、独り暮らしのお年寄りや障害のある方の存在でした。そこで私はそういった“災害弱者”を支援するために、今回の大震災において矢板市では運用されることがなかった「(災害時)要援護者対応マニュアル」や「要援護者リスト」について、県は計画づくりを強く指導していく必要があると考えています。

また矢板市では多くの住宅が損壊し、その数は4月27日現在で「全壊」53棟、「半壊」55棟、「一部損壊」854棟に上っています。そこで私は、地元選出の渡辺喜美代議士・「みんなの党」代表とともに、現行の被災者生活再建支援制度の支給額の上積みや適用条件の拡大に取り組むほか、先進県の事例をもとに本県独自の資金援助制度の創設に取り組みます。

そして県内中小企業の資金繰りを支援するために県制度融資を拡充するとともに、今後の雇用収縮に備えて、震災復興事業とセットになった緊急雇用対策を早急に実施していきます。

「みんなの党」は「増税の前にやるべきことがある！」として、まずは国会議員自らが身を切るべきであるということを強調しています。『さいとう淳一郎』も全く同感です。そこで震災復興のために議員報酬を30%カットすることで、そこで生み出された財源は「栃木県震災復興基金」として、本県の震災復興に役立てていきます。

また「みんなの党」は「小さな政府」「小さな県庁」を提案しています。しかしかつて小泉さんがやった改革と決定的に違う点は、「みんなの党」は「誰でも安心、いつでも安心」のセーフティネット（安全網）を用意していることです。

皆様の生命と財産を守ることができるのは政治と行政にしかできません。『さいとう淳一郎』はそのことをしっかりと肝に銘じて、栃木県内の震災復興に全力を尽くしていきます。